

DIAM高格付外債ファンド 愛称:トリプルエース

追加型投信 / 海外 / 債券
月次運用レポート
2012年1月

商品の特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。

最高位の信用力を有する短期の外国債券へ投資します。

・投資対象である国際機関債および国債等は、当初組入時において最高位の信用格付であるAAA格(S&P社)またはAaa格(Moody's社)を取得しているものに限りします。

・国際機関債へは「国際機関債マザーファンド」を通じて、国債等へは直接投資を行います。

相対的に利回りの高い外国債券に投資します。

毎月安定的な分配を行うことをめざします。

・主として組入債券の利子収入や値上がり益などを原資として、毎月の決算時に安定した収益分配を行うことをめざします。

・毎月19日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

分配金が支払われない場合もあります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

主なリスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

投資信託は預貯金と異なります。投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。当ファンドの基準価額の主な変動要因は以下のとおりです。なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。その他の留意点など、くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

金利リスク…………… 一般的に金利が上昇すると債券の価格は下落します。当ファンドは、実質的に債券に投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。これにより投資元本を割り込むことがあります。

信用リスク…………… 実質的に投資する債券や短期金融商品等の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

為替リスク…………… 当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として対円で為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

流動性リスク…………… 当ファンドは、実質的に市場規模が小さい債券等に投資する場合があります。そのような市場では、資産規模や取引量が少ないため売却時に市場実勢から期待される価格で売却できなかつたり、売買取引が困難となることから、価格の値動きが大きくなることもあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

カントリーリスク…………… 実質的な投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等によっては、運用上の制約を受ける可能性があり、基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

当ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「お客様にご負担いただく費用について」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

**当資料は10枚ものです。P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。
なお、別紙1も併せてご確認ください。**

設定・運用は

DIAMアセットマネジメント



商号等: DIAMアセットマネジメント株式会社

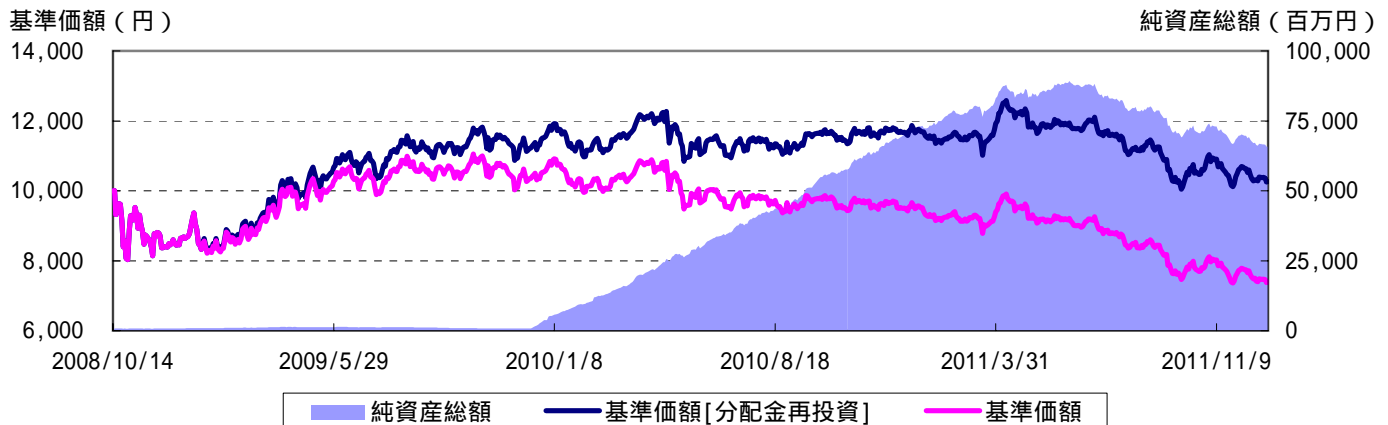
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号

加入協会: 社団法人投資信託協会

社団法人日本証券投資顧問業協会

D I A M高格付外債ファンド (愛称:トリプルエース)
追加型投信 / 海外 / 債券
 月次運用レポート (2012年1月)

運用実績の推移



(設定日:2008年10月15日)

基準価額[分配金再投資]は、税引前の分配金を再投資したものと計算していますので、実際の基準価額とは異なります。

基準価額[分配金再投資] = 前日基準価額[分配金再投資] × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額)

(決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

基準価額は信託報酬除後です。なお、信託報酬率は「お客様にご負担いただく費用について」をご覧ください。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

基準価額・純資産総額

基準価額	7,390 円
解約価額	7,383 円
純資産総額	65,786 百万円

ポートフォリオ構成

実質組入比率	94.4 %
内現物等組入比率	94.4 %
内先物等組入比率	0.0 %
組入銘柄数	47

比率は純資産総額に対する実質組入比率です。

ポートフォリオの状況

平均複利利回り	6.76%
平均クーポン	9.65%
平均残存期間	1.33
修正デュレーション	1.17

当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価総額を基に計算しています。

騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月 (2011/11/30)	3ヵ月 (2011/09/30)	6ヵ月 (2011/06/30)	1年 (2010/12/30)	2年 (2009/12/30)	3年 (2008/12/30)
当ファンド	-2.06%	-0.31%	-13.92%	-11.37%	-11.77%	17.06%

1 当ファンド騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと算出しておりますので、実際の投資家利回りとは異なります。

2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

分配金情報 (税引前)

直近3年分

第1期 (2009.01.19)	70 円	第13期 (2010.01.19)	85 円	第25期 (2011.01.19)	100 円
第2期 (2009.02.19)	70 円	第14期 (2010.02.19)	85 円	第26期 (2011.02.21)	100 円
第3期 (2009.03.19)	70 円	第15期 (2010.03.19)	100 円	第27期 (2011.03.22)	100 円
第4期 (2009.04.20)	70 円	第16期 (2010.04.19)	100 円	第28期 (2011.04.19)	100 円
第5期 (2009.05.19)	70 円	第17期 (2010.05.19)	100 円	第29期 (2011.05.19)	100 円
第6期 (2009.06.19)	70 円	第18期 (2010.06.21)	100 円	第30期 (2011.06.20)	80 円
第7期 (2009.07.21)	70 円	第19期 (2010.07.20)	100 円	第31期 (2011.07.19)	80 円
第8期 (2009.08.19)	70 円	第20期 (2010.08.19)	100 円	第32期 (2011.08.19)	80 円
第9期 (2009.09.24)	70 円	第21期 (2010.09.21)	100 円	第33期 (2011.09.20)	80 円
第10期 (2009.10.19)	85 円	第22期 (2010.10.19)	100 円	第34期 (2011.10.19)	80 円
第11期 (2009.11.19)	85 円	第23期 (2010.11.19)	100 円	第35期 (2011.11.21)	80 円
第12期 (2009.12.21)	85 円	第24期 (2010.12.20)	100 円	第36期 (2011.12.19)	80 円
				累計分配金	3,115 円

1 分配金は1万口当たり

2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

分配金が支払われない場合もあります。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

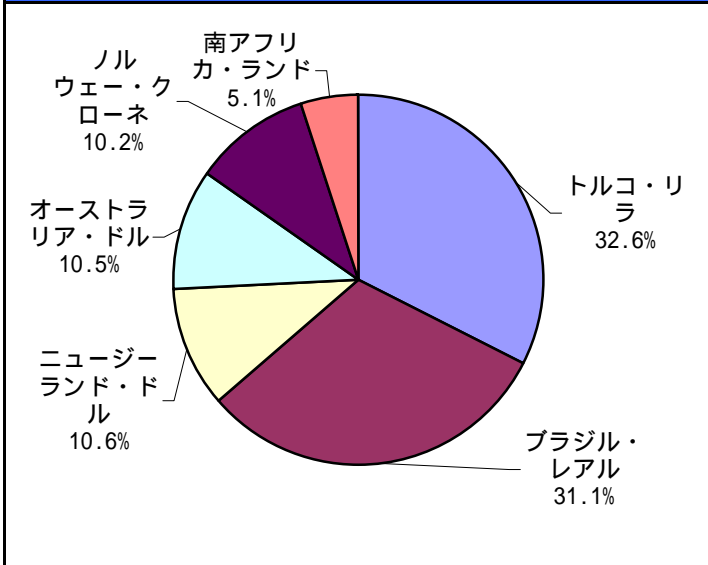
設定・運用は

DIAMアセットマネジメント



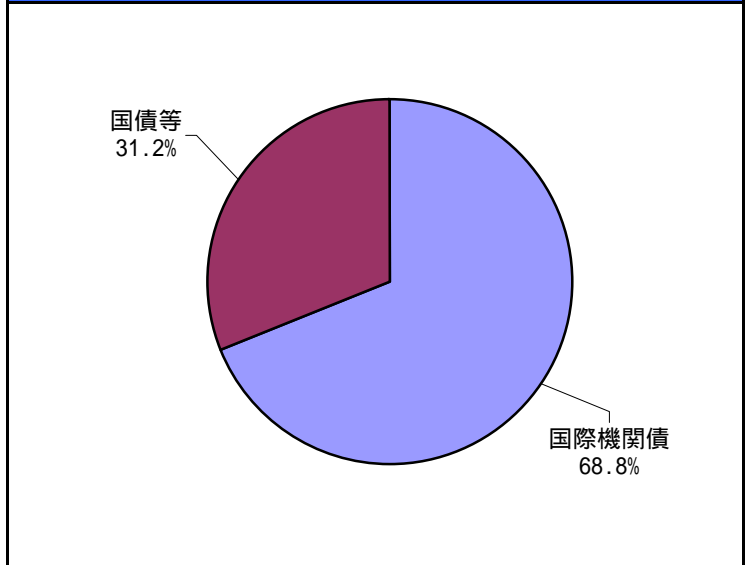
D I A M高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
 追加型投信 / 海外 / 債券
 月次運用レポート（2012年1月）

通貨別構成比



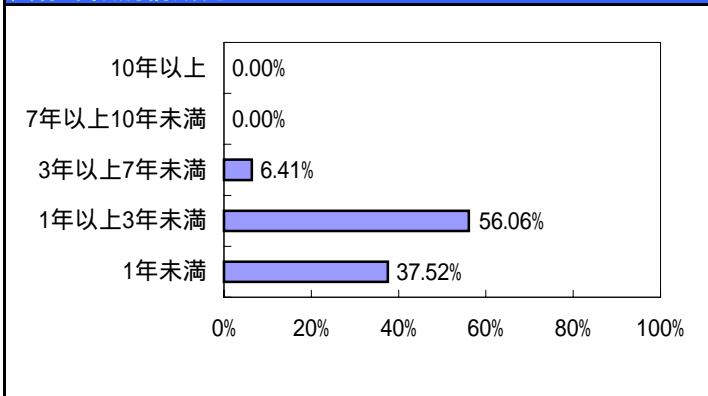
比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

種類別構成比



比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

残存年限別構成比



比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

格付別構成比

格付	割合
A A A	100.00%
A A	0.00%
A	0.00%
合計	100.00%

1 比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

2 格付については、海外格付機関（S&PおよびMoody's）による上位のものを採用しています。また、+・-等の符号は省略し、S&Pの表示方法にあわせて表記しています。

基準価額の通貨建て要因分析（2011年12月1日～2011年12月30日）

（単位：円）

	ブラジル	トルコ	南アフリカ	オーストラリア	ニューゼaland	ノルウェー	合計
キャピタル	-35	-3	-1	-2	-2	-4	-47
インカム	20	23	3	4	4	4	58
為替	-47	-105	6	6	7	-24	-159
小計	-62	-84	7	7	8	-24	-148
信託報酬							-9
分配金							-80
合計							-237

上記の要因分析は、「簡便法」により行っておりますので、実際の数値とは異なります。傾向を知るための目安としてご覧ください。
 キャピタルとは、金利変動の影響による債券単価の値上がり値下がり（評価損益で、実際の売買は行わなくても日々時価で評価しています。）と売買損益の合計です。

インカムとは、利子（経過利息を含む）などから得られる収益です。

当資料は10枚ものです。
 P.9の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント



DIAM高格付外債ファンド(愛称:トリプルエース)
追加型投信/海外/債券
月次運用レポート(2012年1月)

保有銘柄一覧表

(単位:%)

No	銘柄	クーポン	償還日	国名	通貨	格付	組入比率
1	国際金融公社債	11.25%	2012/07/17	国際機関	トルコリラ	AAA	11.14
2	ニュージーランド国債	6.50%	2013/04/15	ニュージーランド	ニュージーランドドル	AAA	9.97
3	ノルウェー国債	6.50%	2013/05/15	ノルウェー	ノルウェークローネ	AAA	9.61
4	オーストラリア国債	6.50%	2013/05/15	オーストラリア	オーストラリアドル	AAA	6.50
5	欧州復興開発銀行債	9.25%	2012/09/10	国際機関	ブラジルリアル	AAA	5.61
6	欧州投資銀行債	11.25%	2013/02/14	国際機関	ブラジルリアル	AAA	4.84
7	欧州復興開発銀行債	9.50%	2013/11/06	国際機関	ブラジルリアル	AAA	4.23
8	欧州投資銀行債	14.00%	2016/07/05	国際機関	トルコリラ	AAA	3.68
9	アジア開発銀行債	9.50%	2012/05/25	国際機関	ブラジルリアル	AAA	3.35
10	ビクトリア州債	6.25%	2012/10/15	オーストラリア	オーストラリアドル	AAA	3.00
11	欧州投資銀行債	10.00%	2013/09/10	国際機関	トルコリラ	AAA	2.92
12	世界銀行債	16.00%	2012/02/28	国際機関	トルコリラ	AAA	2.57
13	米州開発銀行債	9.50%	2013/02/04	国際機関	ブラジルリアル	AAA	2.41
14	世界銀行債	9.00%	2013/04/22	国際機関	トルコリラ	AAA	1.95
15	世界銀行債	10.25%	2012/08/24	国際機関	トルコリラ	AAA	1.93
16	世界銀行債	13.63%	2017/05/09	国際機関	トルコリラ	AAA	1.92
17	アジア開発銀行債	9.25%	2013/04/30	国際機関	ブラジルリアル	AAA	1.91
18	米州開発銀行債	9.50%	2014/01/06	国際機関	ブラジルリアル	AAA	1.81
19	欧州投資銀行債	17.00%	2012/01/18	国際機関	トルコリラ	AAA	1.77
20	国際金融公社債	17.00%	2012/07/17	国際機関	トルコリラ	AAA	1.57
21	欧州投資銀行債	11.50%	2012/06/25	国際機関	ブラジルリアル	AAA	1.41
22	欧州復興開発銀行債	9.75%	2014/01/28	国際機関	ブラジルリアル	AAA	1.37
23	国際金融公社債	9.25%	2013/09/16	国際機関	ブラジルリアル	AAA	0.95
24	北欧投資銀行債	10.00%	2013/05/14	国際機関	ブラジルリアル	AAA	0.60
25	世界銀行債	9.24%	2012/02/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.56
26	欧州投資銀行債	9.50%	2012/11/05	国際機関	ブラジルリアル	AAA	0.52
27	世界銀行債	9.30%	2014/09/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.46
28	世界銀行債	8.75%	2017/03/01	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.45
29	国際金融公社債	15.13%	2013/11/26	国際機関	トルコリラ	AAA	0.43
30	ニューサウスウェールズ州債	6.00%	2012/05/01	オーストラリア	オーストラリアドル	AAA	0.42
31	世界銀行債	9.24%	2014/07/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.42
32	世界銀行債	10.44%	2013/06/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.41
33	世界銀行債	10.44%	2013/06/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.40
34	世界銀行債	9.42%	2014/07/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.39
35	世界銀行債	9.90%	2012/07/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.39
36	世界銀行債	10.74%	2014/07/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.38
37	欧州投資銀行債	14.25%	2012/10/09	国際機関	トルコリラ	AAA	0.32
38	世界銀行債	10.56%	2014/01/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.31
39	世界銀行債	10.56%	2013/12/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.29
40	世界銀行債	12.00%	2012/08/14	国際機関	トルコリラ	AAA	0.28
41	欧州投資銀行債	9.25%	2012/10/22	国際機関	ブラジルリアル	AAA	0.22
42	欧州投資銀行債	9.00%	2013/01/22	国際機関	トルコリラ	AAA	0.22
43	世界銀行債	9.03%	2014/09/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.16
44	世界銀行債	12.50%	2012/05/14	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.15
45	米州開発銀行債	9.00%	2012/08/28	国際機関	ブラジルリアル	AAA	0.14
46	国際金融公社債	14.11%	2012/12/19	国際機関	トルコリラ	AAA	0.06
47	世界銀行債	7.68%	2012/05/10	国際機関	南アフリカランド	AAA	0.00
合計							94.40

1 組入比率は純資産総額に対する実質組入比率

2 格付については、海外格付機関(S&PおよびMoody's)による上位のものを採用しています。また、+・-等の符号は省略し、S&Pの表示方法にあわせて表記しています。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は

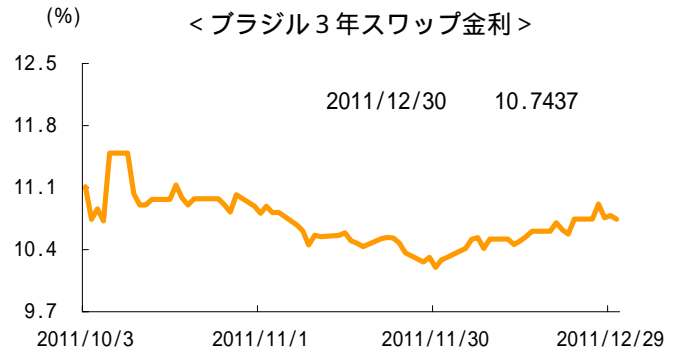
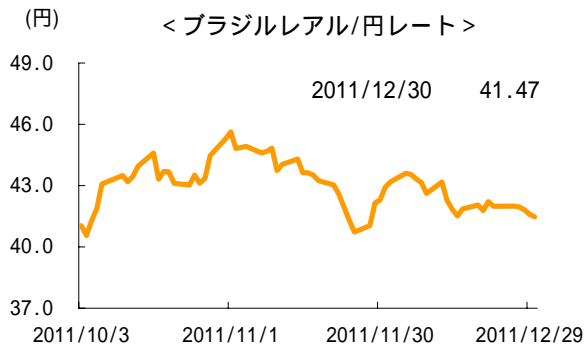
DIAMアセットマネジメント



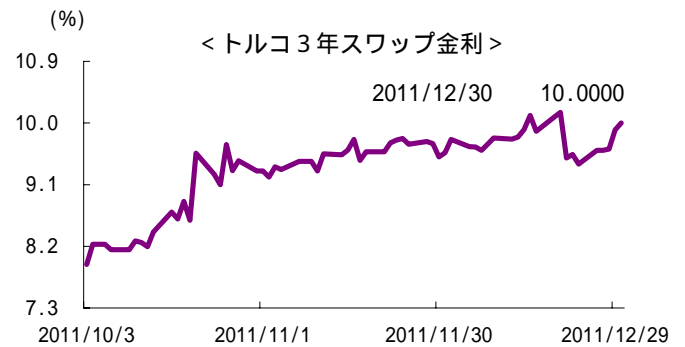
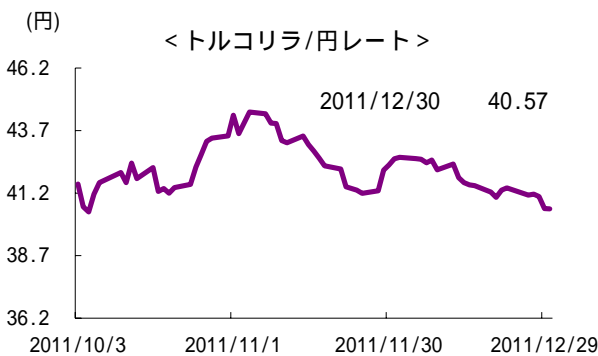
DIAM高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
追加型投信 / 海外 / 債券
月次運用レポート（2012年1月）

各国の為替と金利の動向（直近3ヵ月）

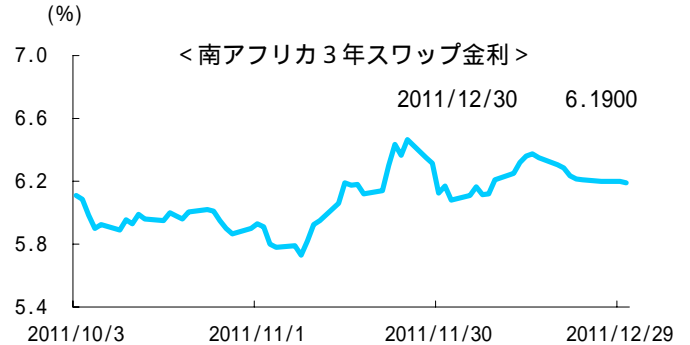
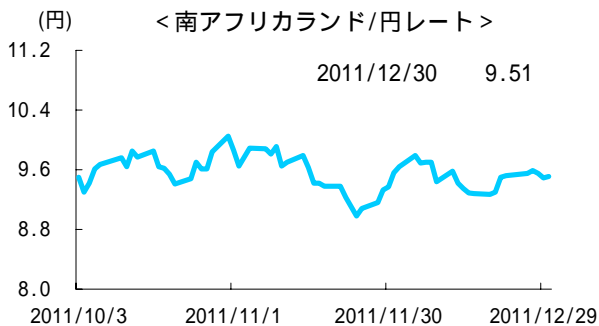
ブ
ラ
ジ
ル



ト
ル
コ



南
ア
フ
リ
カ



- 1 スワップ金利はBloombergのデータを基に作成しています。
- 2 為替レートはTTM（東京外国為替市場の対顧客電信仲値）を使用しています。



モーニングスター アワード “ファンド オブ ザ イヤー2010”
『優秀ファンド賞(国際債券型 部門)』受賞

Morningstar Award “Fund of the Year 2010” は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

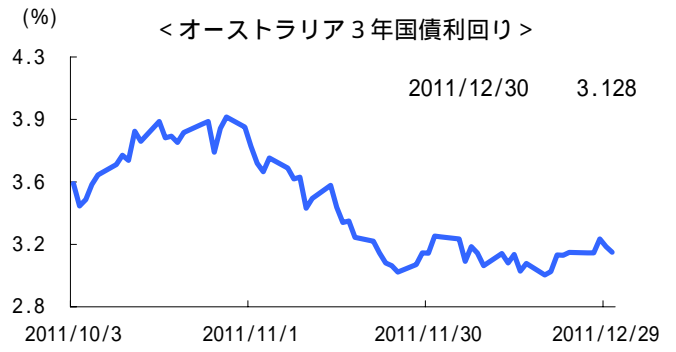
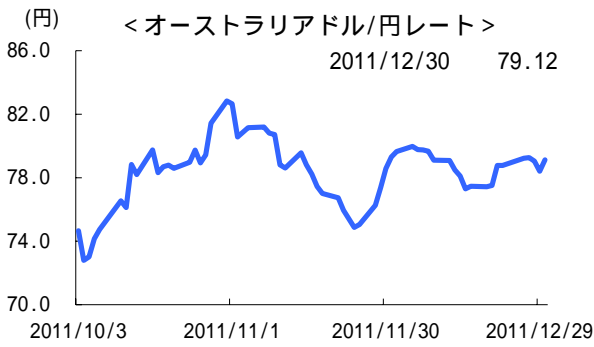
当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2010年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際債券型部門は、2010年12月末において運用期間1年以上の当該部門に属するファンド415本の中から選考されました。

当資料は10枚ものです。
P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

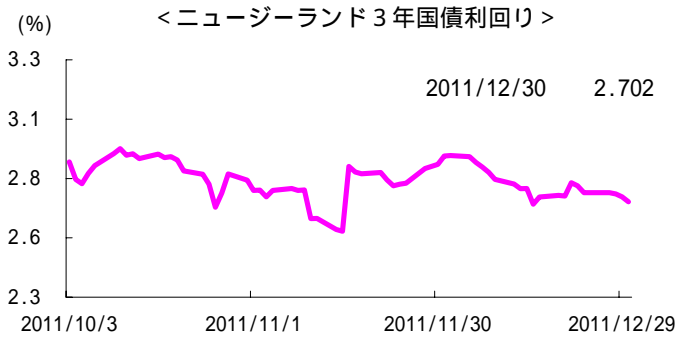
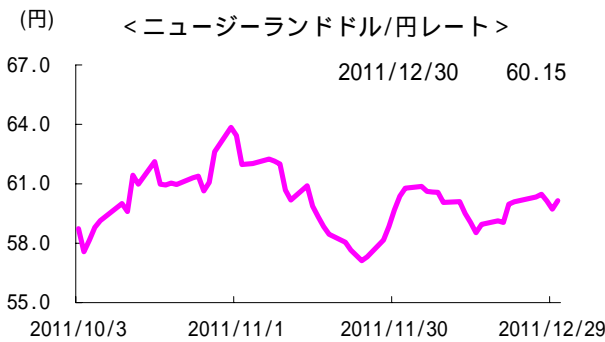
DIAM高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
追加型投信 / 海外 / 債券
月次運用レポート（2012年1月）

各国の為替と金利の動向（直近3ヵ月）

オーストラリア

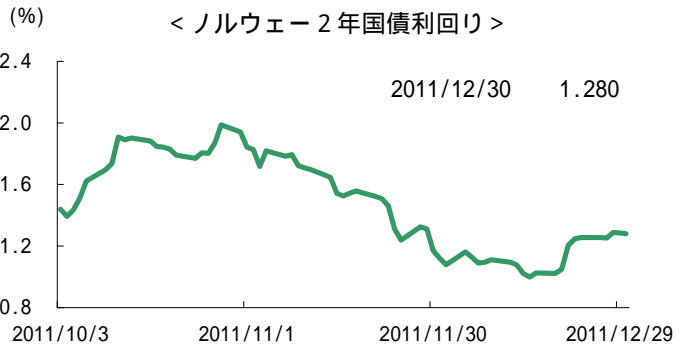
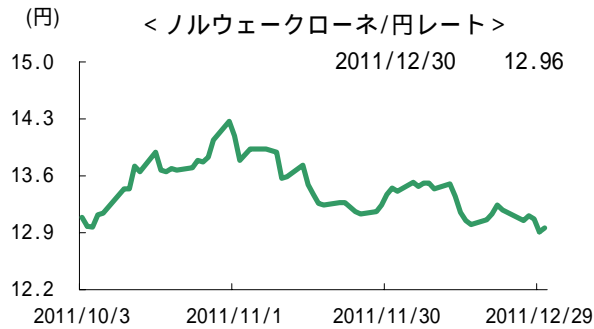


ニュージーランド



適切な3年国債の参照債券が存在しなかったことから、11月15日までのデータは2年国債利回り、11月16日以降のデータは3年国債利回りを表示しています。

ノルウェー



- 1 国債利回りはBloombergのデータを基に作成しています。
- 2 為替レートはTTM（東京外国為替市場の対顧客電信仲値）を使用しています。

当資料は10枚ものです。
P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

D I A M高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
追加型投信 / 海外 / 債券
月次運用レポート（2012年1月）

ファンドマネージャーから皆様へ

現在、当ファンドは、オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェーの各自国通貨建て国債および州債、並びに国際機関債マザーファンドの組入れを通してブラジル、トルコ、南アフリカの各国通貨建て国際機関債を中心に投資を行っています。相対的に残存の短いAAA格の債券を中心に組入れており、金利リスクおよび信用リスクをともに抑制しています。12月の基準価額は対円で一部組入通貨が下落したことを主因に前月末比で2.06%下落しました。12月の組入通貨でのパフォーマンスは高い順に、南アフリカランド、ニュージーランドドル、オーストラリアドル、ブラジルレアル、ノルウェークローネ、トルコリラの順となりました。12月の組入対象国での政策金利の変更は、ノルウェーにおいて0.50%の利下げが実施され政策金利は2.25%から1.75%に、また、オーストラリアでは0.25%の利下げが実施され、政策金利は4.50%から4.25%に引き下げられました。短期国債市場についてはまちまちの動きとなりました。ブラジルでは利回りは上昇（価格は下落）した一方、ニュージーランドでは利回りは低下（価格は上昇）しました。

< 組入対象国の状況 >

オーストラリアでは、通貨高などの影響で景気の勢いは緩やかな状況です。好調な鉱物資源産業が活発な設備投資を行って景気を牽引するという構図に変化はなく、アジアの経済成長を背景に堅調な成長が期待されるものの、欧州債務問題が深刻化しているため、景気が下振れするリスクは存在しています。中国の株式市場が軟調な推移となっていることも懸念材料です。世界経済に対する慎重な見方もあって、債券市場では利回りは低下（価格は上昇）し、為替市場では円高オーストラリアドル安になると予想します。ニュージーランドの景気は踊り場に差しかかっており、目先、欧州債務問題による外需の鈍化の影響を受けることになる見通しです。クライストチャーチで再び大きな地震があり、一部で液状化現象が発生したことが投資家心理の重石になると見られ、目先債券市場では利回りは低下（価格は上昇）し、為替市場では円高ニュージーランドドル安になると予想します。ノルウェー経済は緩やかな成長を続けているものの、欧州債務問題が重石となっています。国内経済は良好さを維持しているものの、ユーロ圏の景気後退入りが濃厚となり、外需の鈍化が心配されます。今後、欧州債務問題がさらに悪化すれば中央銀行は追加利下げを実施して経済を支援する見通しです。ECB（欧州中央銀行）の流動性支援措置で欧州の金融機関の資金繰りには一旦安心感が出ているものの、各国の財政再建の道のりは険しいことには変わりなく、フランスなどが格下げされるリスクもくすぶっていることから、債券市場では利回りは低下（価格は上昇）し、為替市場では円高ノルウェークローネ安になると予想します。

トルコでは、欧州債務問題に対する不透明感やインフレ圧力の高まりに目が向かいやすい中、これまでのリラ安の動きに対してすでに金融引き締め策がとられていることから、債券市場では短期ゾーン中心に利回りは上昇（価格は下落）しました。為替市場では、同じ経済圏にある欧州債務問題が意識されやすい状況下、リラは対米ドル、対円で軟調に推移しました。今後の見通しについては、債券市場では、インフレ率の上昇に対する警戒感が高まりやすいことや短期金利を高め誘導することによって引き続き短期ゾーンを中心に利回りは上昇（価格は下落）しやすいものと見ています。為替市場については、中央銀行はこれ以上のリラ安を阻止すべく対応策を実施していることから、国外の不透明要因次第ではありますがリラは堅調に推移すると見ています。

ブラジルでは、債券市場については、インフレ率が高止まりしていることや堅調な雇用関連統計を受けて、足元の利下げ局面から政策金利を据え置きに転じる時期が早まるとの観測が強まり、短期ゾーンを中心に利回りは上昇（価格は下落）しました。為替市場では、欧州債務問題の解決に向けた目処が立っていないことや年末に向けてリスク許容度が抑えられやすい環境下、新興国通貨への買い意欲が高まりにくかったこともあって、レアルは対米ドル、対円で下落しました。今後の見通しについては、債券市場では、欧州債務問題長期化による国内の景気への影響が懸念される中、当面は利下げ局面が続くことが見込まれます。なお、インフレ率の高止まりと堅調な雇用関連統計を受けて現在の市場予想を上回る利下げ実施の可能性は低下していると考えられ、短期ゾーンの利回りの低下（価格は上昇）余地は限定的と見ています。為替市場についてはブラジルの良好なファンダメンタルズを背景に、中長期的にはレアル高で推移するものと見ています。なお、欧州債務問題の根本的な解決には相応の時間がかかると考えられ、当面は市場のリスク許容度は抑制されやすく、レアルの上値は重く推移すると見ています。

南アフリカでは、債券市場は欧州債務問題を巡るリスク許容度の変化に左右される展開となり、結局、11月末比で利回りは横ばいとなりました。為替市場においても、債券市場同様に欧州債務問題を巡るリスク許容度の変化に左右されたものの、総じてランドは底堅い動きとなり、対米ドル、対円で上昇しました。今後の見通しについては、債券市場では、中長期的にはインフレ動向に目が向かいやすい状況ながら、目先は欧州債務問題の進展等を背景とする市場全体のリスク許容度の変化に左右されやすい地合いが続くものと見ています。為替市場についても同様に、欧州債務問題や市場全体のリスク許容度の変化に左右されやすい展開が見込まれます。

目先の金融市場は、ギリシャを中心とした欧州での債務問題等、不透明要因は多く、リスク許容度の変化には留意が必要となります。当ファンドにおける基準価額の最大の変動要因である為替要因については、引き続き逃避通貨として市場全体で円が選好されるリスクはあるものの、さらなる円高局面では日本政府・日銀による円売り介入が実施される可能性もあって、円の上昇幅は限定的となる見込みです。なお、市場環境が安定すれば世界的な資金余剰の状況に変化はなく、行き場のない資金が新興国等のリスク性資産に流入しやすい状況に転じる見込みです。また、新興国と日本との経済成長格差は大きく、中長期的に見て当ファンドの組入対象通貨は対円で底堅く推移するものと見ています。運用方針としては、金利リスクを抑え目とし、ファンド全体で平均残存年数3年程度を上限とする方針です。また、ファンド全体の利回り水準の引き上げを企図し、国際機関債マザーファンドにおいては、引き続き南アフリカランド建て債の組入比率を抑え目とする一方、ブラジルレアル建ておよびトルコリラ建て債の比率を高めとする方針です。組入対象通貨の見直しについては、中短期金利の水準比較や流動性および投資通貨規制等を勘案して行う方針です。なお、ニュージーランドの格付けがS&P社等によってすでに格下げされていることから、今後、ムーディーズ社によっても格下げが実施された場合には同国国債を速やかに売却するとともに、その資金をオーストラリアおよびノルウェーに振り替える方針です。また、国際機関債マザーファンドにおいてはインドネシアルピア建て国際機関債の新規組入れを検討しています。

上記の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

当資料は10枚ものです。

P.9の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。

設定・運用は

DIAMアセットマネジメント



D I A M高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
追加型投信 / 海外 / 債券
 月次運用レポート（2012年1月）

お申込みメモ（くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご覧ください）

購入単位	各販売会社が定める単位（当初元本：1口＝1円）
購入価額	お申込日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	お申込みをされた販売会社が定める所定の日までに購入代金を販売会社に支払うものとします。
換金単位	各販売会社が定める単位
換金価額	換金のお申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額とします。
換金代金	原則として換金のお申込日より起算して6営業日目から支払います。
申込締切時間	原則として販売会社の毎営業日の午後3時までとします。
購入・換金不可日	ロンドンの銀行またはニューヨークの銀行の休業日に該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	無期限です。（設定日：2008年10月15日）
繰上償還	次のいずれかに該当する場合等には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了する場合があります。 受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合。 受益者のために有利であると認めるとき。 やむを得ない事情が発生したとき。
決算日	原則として毎月19日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年12回、毎決算日に、収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 「分配金受取コース」の場合、決算日から起算して原則として5営業日までにお支払いを開始します。 「分配金自動けいぞく投資コース」の場合、税引後、無手数料で自動的に全額が再投資されます。
課税関係	当ファンドは課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。

お客様にご負担いただく費用について（くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご覧ください）

以下の手数料等の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

購入時

購入時手数料	購入価額に3.15%（税抜3.0%）を上限として各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 くわしくは販売会社にお問い合わせください。
換金時	
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込日の翌営業日の基準価額に0.1%を乗じて得た額とします。
保有期間中（信託財産から間接的にご負担いただきます。）	
運用管理費用 （信託報酬）	信託財産の純資産総額に対して年率1.4175%（税抜1.35%）を日々ご負担いただきます。
その他費用・手数料	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、監査費用、外国での資産の保管等に要する諸費用等が信託財産から支払われます。（その他費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。）

D I A M高格付外債ファンド(愛称:トリプルエース)
追加型投信/海外/債券
 月次運用レポート(2012年1月)

投資信託ご購入の注意

投資信託は、

預金・金融債・保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。

金融機関の預金・金融債あるいは保険契約における保険金額とは異なり、購入金額については、元本保証および利回り保証のいずれもありません。

投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

当資料はDIAMアセットマネジメント株式会社が独自に作成した販売用資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。

当ファンドのお申込みの際には、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料はDIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その情報の完全性、正確性等について同社が保証するものではありません。また、掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

当資料に記載されている運用実績は税引前分配金を再投資したものとする基準価額の変化を示したものであり、税金および手数料は計算に含まれておりません。

当資料の内容はあくまでも作成時点(2012年1月13日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

当ファンドは、実質的に債券などの値動きのある有価証券等に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者にかかる信用状況等の変化により基準価額が下落することがあります(また、外貨建て資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。)。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なることにご留意ください。

ファンドの関係法人

<委託会社> DIAMアセットマネジメント株式会社

<受託会社> みずほ信託銀行株式会社

<販売会社> 販売会社一覧をご覧ください

委託会社の照会先

DIAMアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-506-860

(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

ホームページ

URL <http://www.diam.co.jp/>

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

印は協会への加入を意味します。

2012年1月13日現在

商号	登録番号等	日本証券 業協会	社団法人 日本証券 投資顧問 業協会	社団法人 金融先物 取引業協 会	一般社団法 人第二種金 融商品取引 業協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第3号					
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第624号					
楽天銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第609号					
株式会社富山銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第1号					
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第8号					
株式会社鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第3号					
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第34号					
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号					
株式会社大正銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第19号					
第一生命保険株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第115号					
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号					
みずほインベスターズ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第173号					
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号					
新潟証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第128号					
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号					
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第170号					
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号					
山和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第190号					

その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

- 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。
- 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
- 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

当資料は10枚ものです。

設定・運用は

DIAMアセットマネジメント



DIAM高格付外債ファンド（愛称：トリプルエース）
追加型投信 / 海外 / 債券
 月次運用レポート（2012年1月）

販売会社（お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください）

印は協会への加入を意味します。

2012年1月13日現在

商号	登録番号等	日本証券 業協会	社団法人 日本証券 投資顧問 業協会	社団法人 金融先物 取引業協 会	一般社団 法人第二 種金融業 協会	備考
以下は取次販売会社です。						
北海信用金庫	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第32号					
帯広信用金庫	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第15号					
鶴岡信用金庫	登録金融機関 東北財務局長(登金)第41号					
新庄信用金庫	登録金融機関 東北財務局長(登金)第37号					
会津信用金庫	登録金融機関 東北財務局長(登金)第20号					
福島信用金庫	登録金融機関 東北財務局長(登金)第50号					
佐野信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第223号					
大田原信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第219号					
結城信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第228号					
埼玉縣信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第202号					
青木信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第199号					
芝信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第158号					
東京東信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第179号					
西武信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第162号					
瀧野川信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第168号					
飯田信用金庫	登録金融機関 関東財務局長(登金)第252号					
金沢信用金庫	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第15号					
福井信用金庫	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第32号					
静岡信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第38号					
静岡信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第43号					
浜松信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第61号					
磐田信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第26号					
焼津信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第69号					
遠州信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第28号					
岐阜信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第35号					
西濃信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第44号					
岡崎信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第30号					
瀬戸信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第46号					
豊川信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第54号					
碧海信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第66号					
北伊勢上野信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第34号					
桑名信用金庫	登録金融機関 東海財務局長(登金)第37号					
湖東信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第57号					
京都中央信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第53号					
大阪信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第45号					
大阪東信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第77号					
奈良信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第71号					
大和信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第88号					
奈良中央信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第72号					
きのくに信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第51号					
播州信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第76号					
尼崎信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第39号					
但馬信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第67号					
米子信用金庫	登録金融機関 中国財務局長(登金)第50号					
おかやま信用金庫	登録金融機関 中国財務局長(登金)第19号					
吉備信用金庫	登録金融機関 中国財務局長(登金)第22号					
呉信用金庫	登録金融機関 中国財務局長(登金)第25号					
高松信用金庫	登録金融機関 四国財務局長(登金)第20号					
観音寺信用金庫	登録金融機関 四国財務局長(登金)第17号					
愛媛信用金庫	登録金融機関 四国財務局長(登金)第15号					
幡多信用金庫	登録金融機関 四国財務局長(登金)第24号					
福岡ひびき信用金庫	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第24号					
伊万里信用金庫	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第18号					
コザ信用金庫	登録金融機関 沖縄総合事務局長(登金)第7号					

その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

- 1 新規募集のお取扱いおよび販売業務を行っておりません。
- 2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
- 3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

当資料は10枚ものです。
 P.9の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

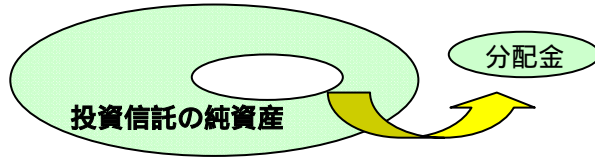
設定・運用は

DIAMアセットマネジメント



投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

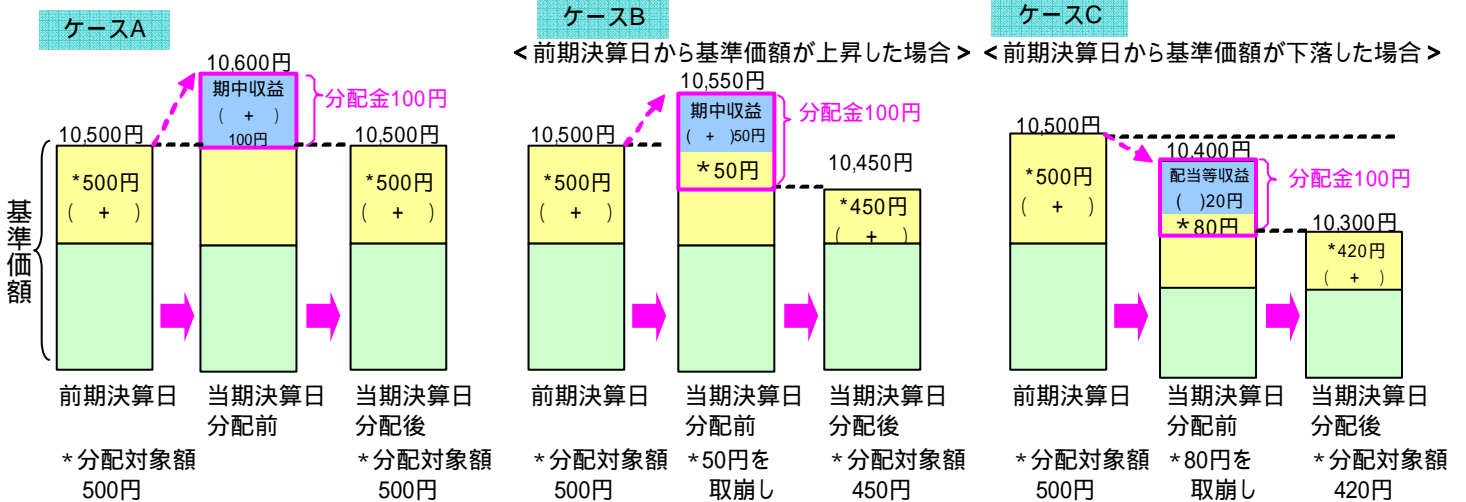
分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

配当等収益(経費控除後)、 有価証券売買益・評価益(経費控除後)、 分配準備積立金、 収益調整金

計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

- ケースA: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円 = 100円
- ケースB: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差 50円 = 50円
- ケースC: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差 200円 = 100円

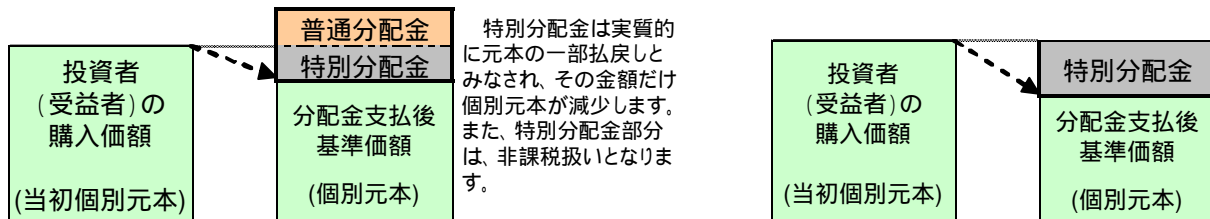
A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

特別分配金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、特別分配金の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。